

令和 6 年 6 月 29 日現在

機関番号：32623

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2023

課題番号：20K22218

研究課題名（和文）大学生のキャリア能力育成を目指したルーブリックの開発

研究課題名（英文）Development of rubrics aiming at developing career abilities of university students

研究代表者

齊藤 絵理子（Saito, Eriko）

昭和女子大学・全学共通教育センター・准教授

研究者番号：60811346

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：研究成果として、学術論文4本、プロシーディング論文1本、学会発表9本、国際学会発表1本を創出することができた。

研究の評価としては各学会において、文献研究によるキャリア開発能力尺度の作成に高い評価を得ることが出来た。この能力尺度は様々な先行研究を参照し、帰納的に導いており、日本の大学におけるキャリア開発教育のために、新たな尺度を提示したことが客観的に評価された。また実証研究を重ね、大学生に対し有用な尺度として認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で作成された能力尺度は、本申請課題のルーブリックの開発に該当するものであり、ここまでの一連の研究は、日本の大学において明示されたルーブリックが不在であるという教育上の課題に対し工学的なアプローチによって応答するものと位置づけられる。今後の研究としてこのルーブリックを用い、様々な集団に対し授業を研究フィールドとするなどの工夫によって実証研究を行うことが望まれる。

研究成果の概要（英文）：As study results, we generated four academic papers, one proceedings paper, nine conference presentations, and one international conference presentation.

As for the evaluation of our research, we obtained a high evaluation at each conference for creating a career development competency scale based on a literature review. This ability scale was derived inductively by referring to various previous studies and was objectively evaluated as a new scale for career development education at Japanese universities. A series of empirical studies also recognized the scale as a useful instrument for university students.

研究分野：経営工学

キーワード：キャリア教育 若者のキャリア開発 大学生 新社会人 能力尺度 就職活動

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景を述べる。

近年の日本社会は若者の働き方に大きな影響を与えてきた。日本経済は戦後復興から高度経済成長、安定成長を経て雇用市場や労働環境の水準向上を実現していった。近年の日本社会はさまざまな変化があり、これらの変化は大学生のキャリア開発に大きな影響を与えてきた。そして日本は世界的にみても若者の雇用について特異な社会システムを持っており、一括採用など独自の雇用システムが設計されている。そのため2004年の大学法人化を契機に大学は経営存続として自己努力による財源確保が大きな課題となり、その財源先を企業に求めるようになった。

そのため大学は開けたアカデミズムを標榜し、企業からの資本を取り込もうとした。一方、企業は経営を支える優秀な人材とその能力を自社に取り込むべく、大学と連携の協力を請け負った。このように日本の社会において、両者は強く結びつき、共に重要な存在へと変化した。そして大学はキャリア開発教育を現実的な雇用とどう接続させるか強く求められるようになったのである。なお日本では1999年に文部科学省によってキャリア教育が登場し、昨今では企業と大学の結びつきに応えるように日本の大学ではキャリア教育が重視されるようになっている。すなわち大学は卒後の職業生活へ学生をどう移行させるか、企業から強く求められるようになったのである。2011年には大学のキャリア教育は義務化され、大学設置基準には以下のような条文が記載されるようになった。

第七条の五

大学は、当該大学及び学部などの教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。

そして上記の大学設置基準によれば、大学のキャリア教育は職業的自立を図るために必要な能力を教育課程の実施及び厚生補導を通じて培う必要があり、そのために「キャリア」「キャリア教育」という用語についても文科省によって定義がなされた。この定義によれば「キャリア」とは「連なりや積み重ね」や「能力や態度を育てる」ことであり、大学機関ではキャリア能力育成を連続的に教育として行わなければならないといえる。

このことについて国内外の関連する先行研究をレビューしたところ、日本独自のこのような雇用システムを踏まえた上で、大学生のキャリア能力育成を目指したルーブリックを開発した研究は謁見の限り散見していない。よってこのルーブリックを開発することは本研究の学術的独自性であり新規性と位置付けられた。

2. 研究の目的

以上の背景を踏まえ、本研究の目的は、日本に特有の社会背景に即した大学生のキャリア能力の育成をめざし、大学における学びとキャリア能力の育成に関する研究を教育として活用し学生に還元すべく、キャリア能力育成の為のルーブリックを構築することであった。

3. 研究の方法

研究方法としてはじめに国内外の文献をレビューし、大学のキャリア開発能力尺度を作成した。作成にあたり能力を抽出し、数百の能力を検討した。そして能力の抽出による網羅化、集約化、体系化を踏まえたステップを経て複数の要因に割り付けられた能力評価項目を作成した。

作成後は2022年度までに4つの実証研究を行った。調査には作成した能力尺度を全て用いこれを計量し分析した。実証研究では、大学生のキャリア教育の場を活用したプレポスト調査、全国の大学生への調査、新社会人を対象にした調査、新卒採用者を対象にした調査を行い、多変量解析による分析を行った。

4. 研究成果

その結果、本研究の主な成果が二点挙げられた。第一の成果は大学におけるキャリア開発教育のための能力評価項目の提案として、網羅化、集約化、体系化した能力評価項目を作成し、キャリア開発の各過程で能力を測定した点である。第二の成果は大学生のキャリア開発を複数の対象者に対しても時間的にも拡張して捉え、能力の測定により大学生のキャリア開発には連続性があることを確認した点であった。本研究で作成されたこの能力尺度は申請課題のループブリックの開発に該当するものであり、ここまでの一連の研究は、日本の大学において明示されたループブリックが不在であるという教育上の課題に対し工学的なアプローチによって応答するものと位置づけられ、研究の独創性及び新規性を担保することになった。

この成果創出に応じた研究業績として、学術論文4本、国際学会プロシーディング論文1本、国内学会発表9本、国際学会発表1本の創出を行った。

また本研究の評価としては、国内外の学会において文献研究によるキャリア開発能力尺度の作成に高い評価を得ることが出来た。この能力尺度は様々な先行研究を参照し帰納的に導いており、日本の大学におけるキャリア開発教育のため新たな尺度を提示したことが客観的に評価された。また実証研究を重ね大学生に対し有用な尺度として認められた。

特に学術論文においては、日本経営工学会などをはじめとする経営工学、経営システム学、社会システム学の学術分野において人的資本論や人間資源論などの経営学の基盤理論を引用しながら工学的な手法や研究枠組みを用いた研究として学術的な知の蓄積に貢献した。

最後に、今後の研究の課題と展望を述べる。

第一に、本研究で新しく追記した能力評価項目は、あくまでも現状の日本の大学におけるキャリア開発教育で扱う能力だということである。ゆえに本研究で除外したり纏められたりした数百の能力もキャリア開発教育で不要なわけではない。今後の課題として今後の日本社会においてキャリア開発能力として身につける必要性が出てくる可能性もあり、引き続きの検討が求められる。第二に、本研究は縦断的研究ではないため、ひとりの人間のキャリア開発を連続的に追跡できていないという課題がある。今後は卒業生調査などの利用も含めひとりの人間を時系列に追跡するような調査を行う研究も必要となる。

第三に、本研究では現在の大学のキャリア開発教育に適した能力評価項目を作成したが、今後も定期的に情報を収集し能力評価項目として新しい能力を発見し検討していくことが求められるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 齊藤絵理子	4. 巻 40(3)
2. 論文標題 新社会人のキャリア開発に対する能力観 新社会人と新卒採用者 との比較を通して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本経営システム学会	6. 最初と最後の頁 213-225
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Eriko SAITO, Takahiro OHNO	4. 巻 ISBN978-967-17856-1-4
2. 論文標題 Self-perceived competencies acquired through university career development education by young employees in their first three years as new graduates in Japanese company	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asia Pacific Industrial Engineering & Management System Conference2023	6. 最初と最後の頁 142-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 齊藤絵理子	4. 巻 74(3)
2. 論文標題 キャリア開発教育を評価する能力尺度の開発と大学のキャリア開発教育から雇用への接続効果及び大学生が自己認識する能力の検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本経営工学会	6. 最初と最後の頁 105-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 齊藤絵理子	4. 巻 40(1)
2. 論文標題 非難関大学生がキャリア開発授業の受講効果として自己評価した能力	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本経営システム学会	6. 最初と最後の頁 11-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤絵理子	4. 巻 20(4)
2. 論文標題 大学のキャリア教育における批判的課題の再整理	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本教育工学	6. 最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Eriko SAITO, Takahiro OHNO
2. 発表標題 Self-perceived competencies acquired through university career development education by young employees in their first three years as new graduates in Japanese company
3. 学会等名 Asia Pacific Industrial Engineering & Management System Conference2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 齊藤絵理子
2. 発表標題 新社会人のキャリア開発に対する能力観
3. 学会等名 第70回 日本経営システム学会 全国研究発表大会 (2023春季大会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 齊藤絵理子
2. 発表標題 大学教育を通じて身につけた能力と新社会人として職業生活に役に立つ能力
3. 学会等名 日本キャリア教育学会第44回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齊藤絵理子
2. 発表標題 偏差値別にみた大学のキャリア開発教育の効果と大学生が自己認識するキャリア開発能力
3. 学会等名 キャリアデザイン学会 CDIJ 第18回 研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齊藤絵理子
2. 発表標題 マージナル大学の生き残り経営とキャリア開発における学生の自己評価の歪み
3. 学会等名 第68回 日本経営システム学会 全国研究発表大会（2022春季大会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齊藤絵理子
2. 発表標題 大学経営に資するキャリア教育の中で身につけること
3. 学会等名 日本経営工学会 2022年春季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齊藤絵理子
2. 発表標題 人的資本開発の観点からみた大学生の身につけるべきキャリア能力
3. 学会等名 第66回 日本経営システム学会 全国研究発表大会（2021春季大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齊藤絵理子
2. 発表標題 大学のキャリア教育が大学生のキャリア開発に与える効果
3. 学会等名 日本経営工学会 2021年春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齊藤絵理子
2. 発表標題 受験学習を全くせず入学した大学生が就活時に持ちうる人的ネットワーク
3. 学会等名 日本教育心理学会第64回総会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関